

2019年度 愛臨技精度管理調査報告 生理検査部門



豊橋市民病院
手嶋 充善

調査対象項目

- ▶ 心電図検査
- ▶ 腹部・表在超音波検査
- ▶ 心臓・血管超音波検査
- ▶ 神経生理検査
- ▶ 呼吸機能検査

精度管理調査方法

- ▶ 5分野共に、フォトを中心とした設問を出題
- ▶ 腹部・表在超音波検査、心臓・血管超音波検査分野では動画を用いた設問を出題
- ▶ 各設問に数値設問を取り入れた

参加施設数

		2018年度	2017年度
➡ 心電図検査	: 95施設	(94施設)	(85施設)
➡ 腹部・表在超音波検査	: 80施設	(76施設)	(63施設)
➡ 心臓・血管超音波検査	: 85施設	(85施設)	(74施設)
➡ 神経生理検査	: 69施設	(67施設)	(60施設)
➡ 呼吸機能検査	: 81施設	(81施設)	(74施設)

評価基準

➡ 正解 . . . 評価A

➡ 不正解 . . . 評価D

➡ 腹部・表在超音波検査

➡ 心臓・血管超音波検査

➡ 神経生理検査



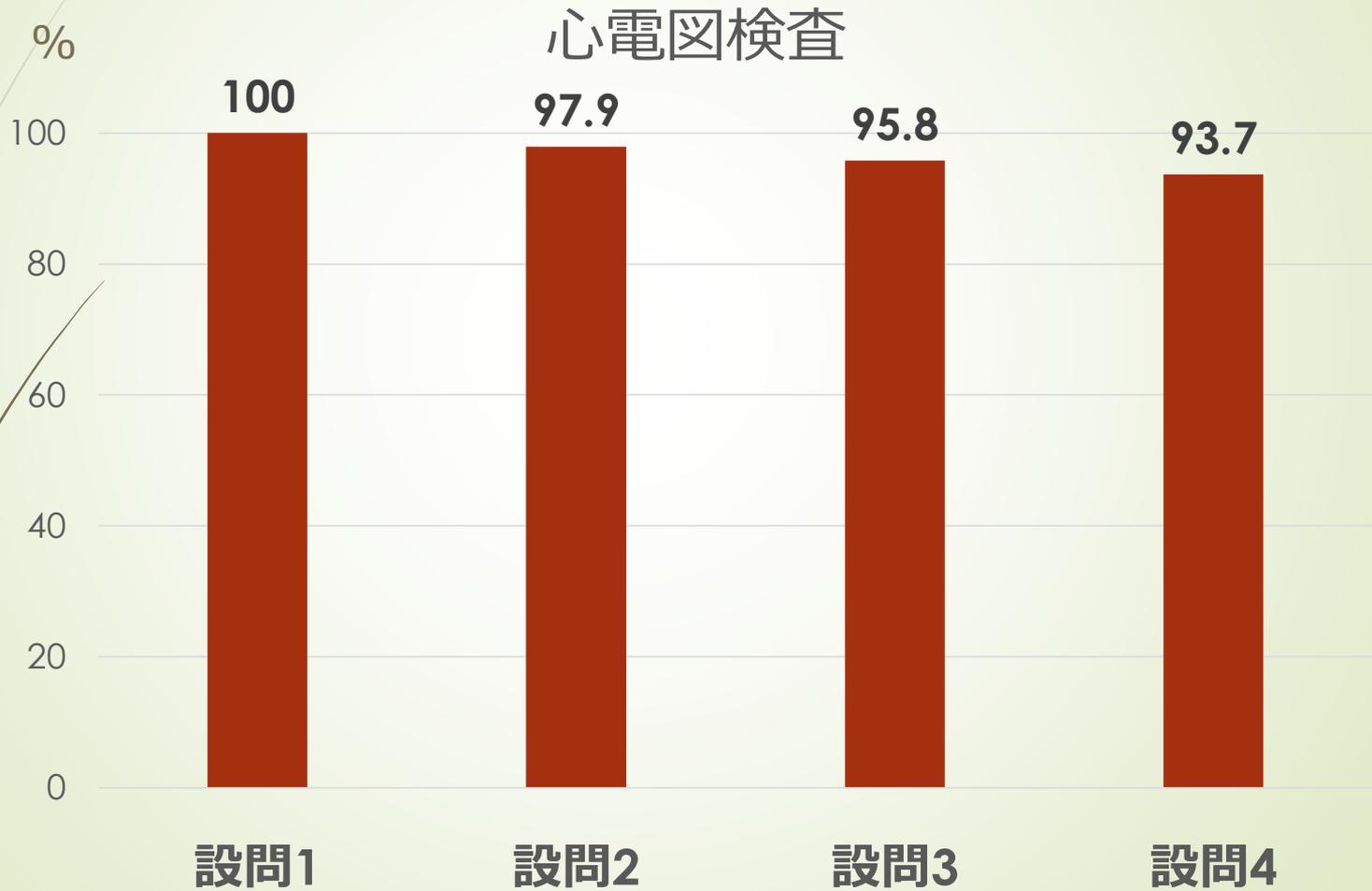
未実施・評価対象外 . . . 参考



心電図検査

- 設問1：心電計の日常点検
- 設問2：心室期外収縮の起源
- 設問3：発作性上室頻拍
- 設問4：Brugada症候群

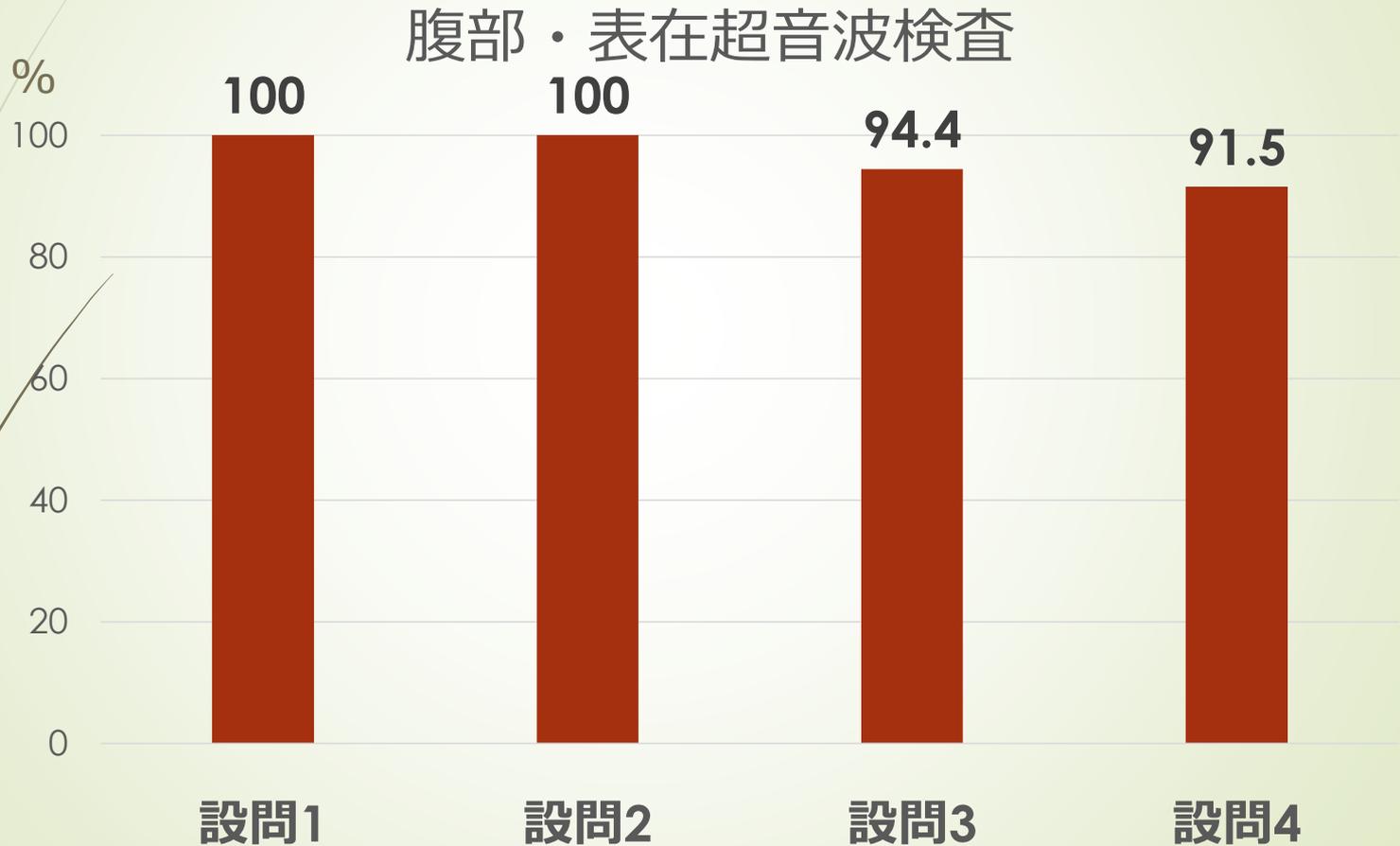
正解率 (心電図)



腹部・表在超音波検査

- 設問1：腹部超音波検査の基礎
- 設問2：アーチファクト
- 設問3：肝腫瘤診断
- 設問4：乳腺超音波検査

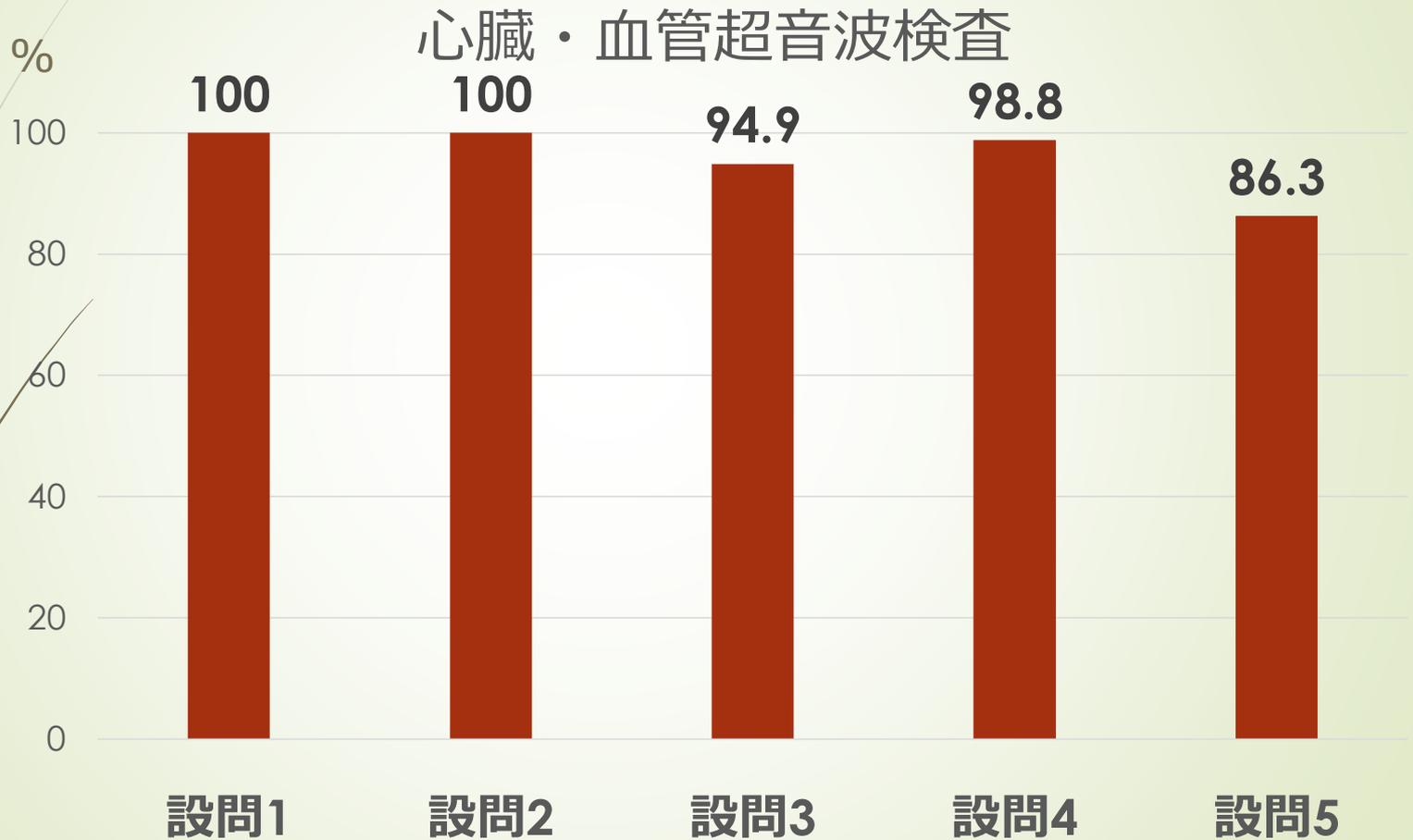
正解率 (腹部・表在超音波検査)



心臓・血管超音波検査

- 設問1：超音波診断装置に関する設問
- 設問2：感染性心内膜炎
- 設問3：頸動脈のプラーク
- 設問4：僧帽弁狭窄症
- 設問5：動脈管開存症

正解率 (心臓・血管超音波検査)

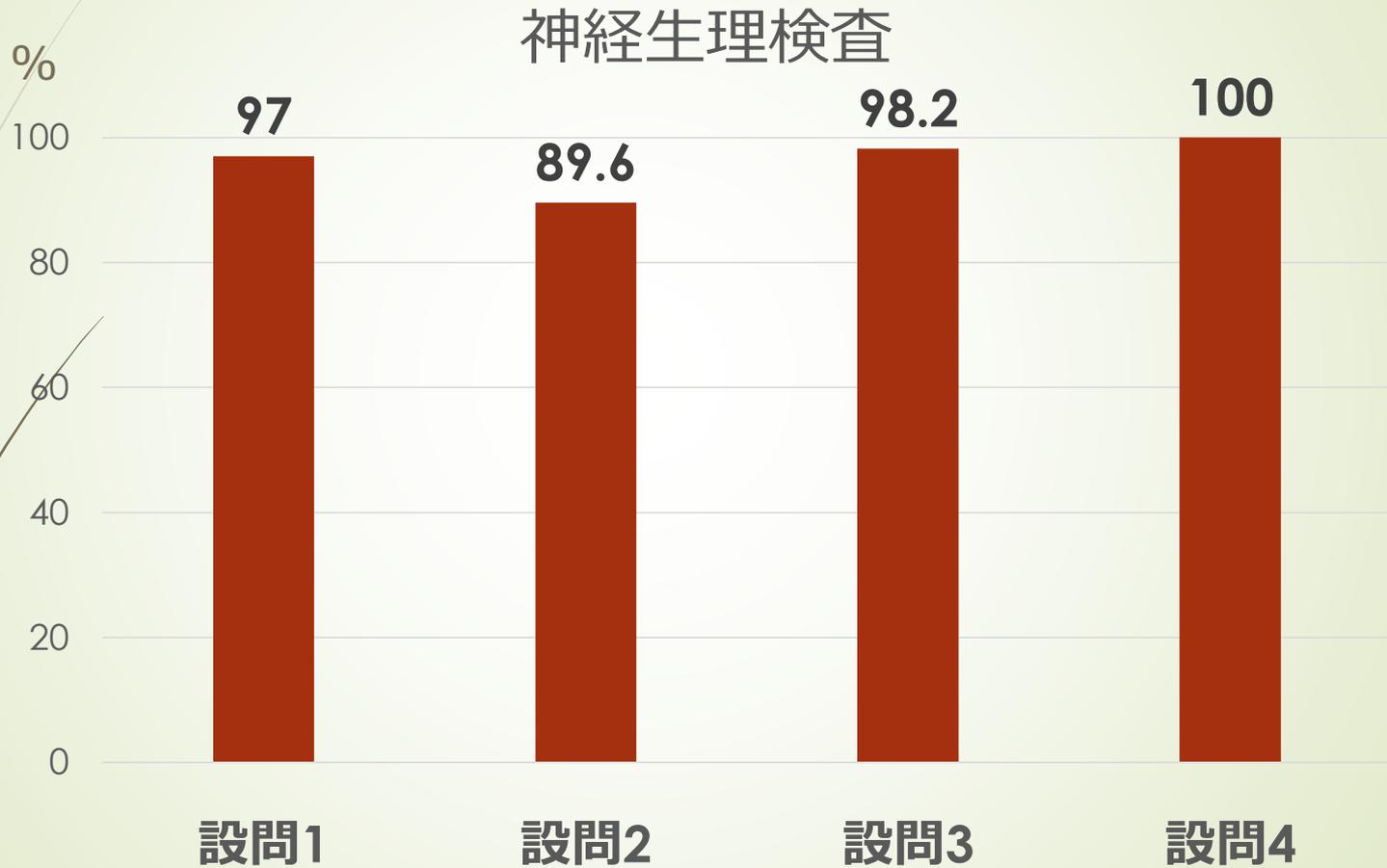


評価対象外

神経生理検査

- 設問1：健常人の覚醒時脳波の年齢による変化
- 設問2：クロイツフェルト・ヤコブ病
- 設問3：Martin-Gruber (MG) 吻合を認める際の神経伝導検査
- 設問4：聴性脳幹反応(ABR)

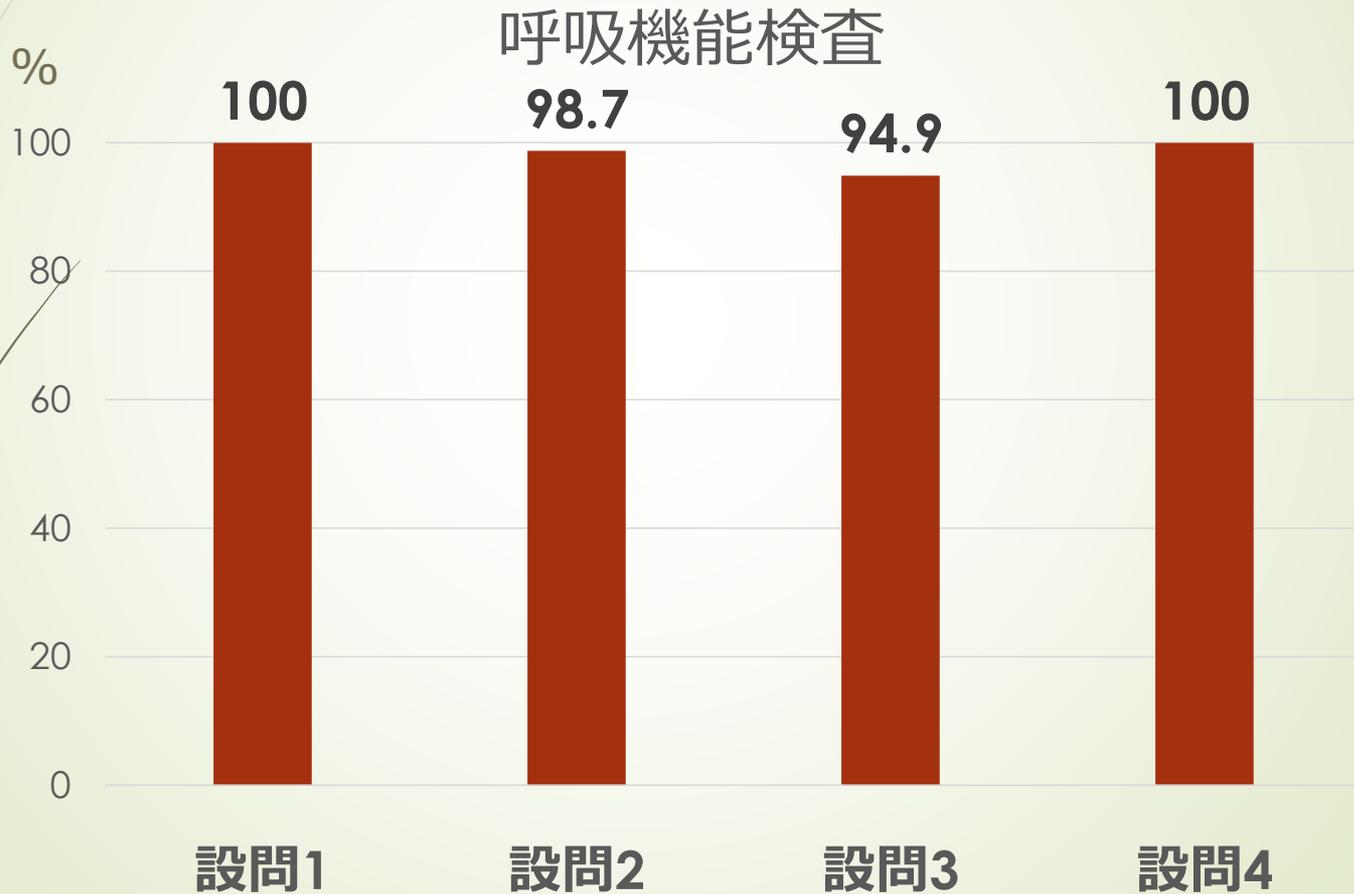
正解率 (神經生理検査)



呼吸機能検査

- 設問1：呼吸機能検査の基礎
- 設問2：呼気NO
- 設問3：気道可逆性検査
- 設問4：拘束性換気障害

正解率 (呼吸機能検査)





今年度、数値・計測設問を出題

腹部・表在超音波検査

設問5

胆嚢内に隆起性病変を認めます。超音波画像（図4）より胆嚢内の隆起性病変の最大径を画像右端のスケールを使用し、計測して下さい。（単位はmm、小数点以下は四捨五入）

解答例

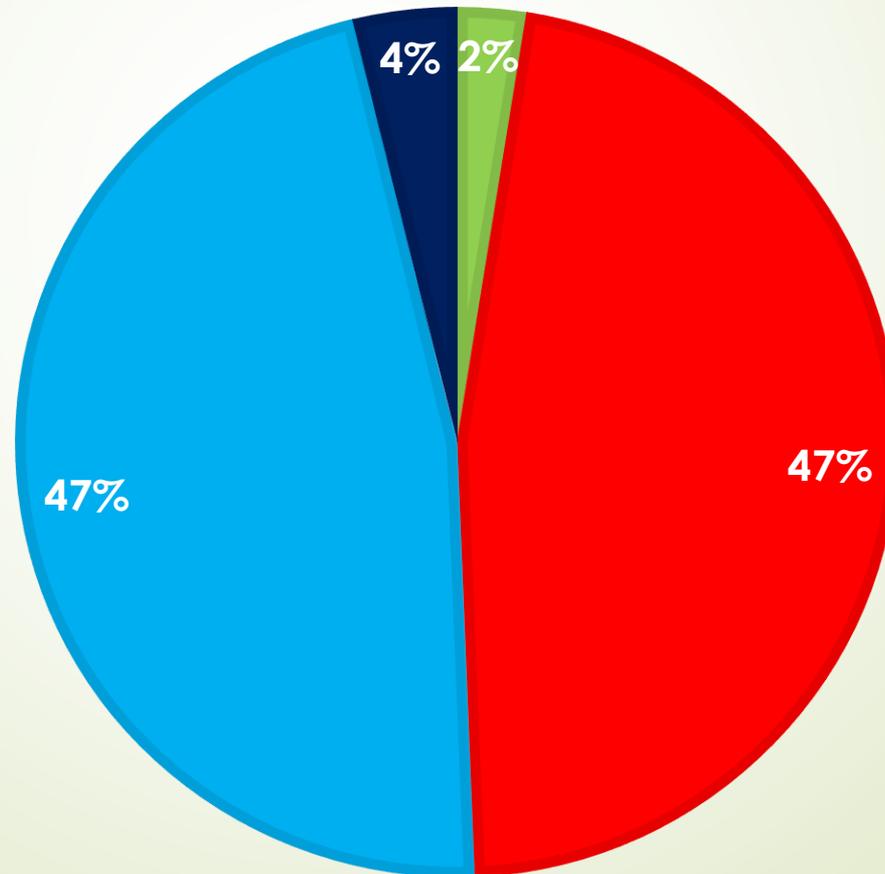
- 10、10mm
- 2.2、2.3
- 20、20mm
- 21、21mm
- 22、22mm
- 23、23mm
- 24、24mm
- 25、25mm
- 22～23mm



心臓・血管超音波検査

VISUAL EF

■ ~19% ■ 20%~29% ■ 30%~39% ■ 40%~49%



数値設問 アンケート調査結果

Q. 生理部門での精度管理において数値（計測）設問の必要性についてお答え下さい。

- ▶ 必要である。（37施設）
- ▶ 必要ではない。（21施設）
- ▶ その他（8施設）

数値設問 アンケート調査結果

- ➡ どちらでもよい。
- ➡ 現状よく考えられていると思う。
- ➡ 統一した計測方法の周知は必要と思う。
- ➡ 検査を行う上で知識として必要なものではあるが、精度管理としての設問は疑問に感じる。
- ➡ 必要ではあるが、解答を選択する方法がよいと思う。
- ➡ 数値設問は必要と思う。

まとめ

- 基礎知識や実際の検査業務でよく遭遇する内容を主に
出題した。
- 正解率は概ね良好であった。
- 腹部・表在超音波検査、心臓・血管超音波検査では動
画設問をAVI形式としてwebからの回答のみとした。
- 今年度は数値設問を新たに取り入れた設問を作成し
た。
- 約6割の施設では数値・計測設問の必要性を感じられ
る回答を得た。
- 各部門において設問作成に苦慮したが、来年度はより
実検査に近づけられるような設問を作成したいと考える。